

2016年4月13日

新たな「エコ・エアポートビジョン」及び 「エコ・エアポート基本計画」を策定しました

この度、成田空港では空港を取り巻く環境の変化などを踏まえ、2030年度に向けて目指す方向性を示す、エコ・エアポートビジョン 2030 を策定しました。また、エコ・エアポートビジョンを実現するための実施計画である、エコ・エアポート基本計画(2011～2015年度)の期間満了に伴い、エコ・エアポート基本計画(2016～2020年度)を策定しましたのでお知らせいたします。

エコ・エアポートビジョン 2030

成田空港はステークホルダーと共に、空港運用に伴う地域への環境負荷低減と地球規模の環境課題に取り組み、地域と空港の持続可能な発展を目指します。

地域と空港の持続可能な発展を目指します
【環境負荷の低減】

地球規模の環境課題に取り組みます
【気候変動対策※】

ステークホルダーと共にエコ・エアポートを推進します
【取り組みの基盤強化】

※2030年度までに空港から排出されるCO₂を2015年度比で発着回数1回あたり30%削減します

エコ・エアポート基本計画(2016～2020年度)

➤ 周辺環境への取り組み

- ・航空機騒音による環境負荷低減
- ・大気質の保全
- ・雨水排水の水質維持
- ・生物多様性を育む自然環境保全
- ・地域と共に環境取り組みを推進・強化

➤ 資源循環への取り組み

- ・資源の循環利用
- ・水資源の循環利用

➤ 気候変動への取り組み

- ・空港からのCO₂排出量削減
- ・エネルギー使用量削減
- ・地球温暖化に伴う気候変動への適応対策

➤ 環境マネジメント

- ・環境アセスメントの実施
- ・ステークホルダーと連携した取り組み
- ・ステークホルダーとの相互対話を推進
- ・環境認証制度を活用した取り組み
- ・国内外空港と連携した取り組み
- ・東京オリンピックに向けた取り組み

※エコ・エアポートビジョンと基本計画の詳細は別紙 1,2 参照

成田空港を取り巻く環境の変化

- 首都圏の航空需要の増加に対応する空港機能の強化に向けて、更なる環境対策が必要
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、成田空港の環境取り組みを推進
- COP21 での「パリ協定」採択など、国際的な CO₂ 削減への取り組みが進む

エコ・エアポートビジョン 2030

- ビジョンは東京オリンピック・パラリンピック、その後の空港機能強化を見据えた 2030 年度を目標年度として、成田空港の目指すべき方向性を示す
- ビジョンは 3 本の柱により構成
 - ① 空港周辺地域の環境負荷低減など、地域に根ざした環境保全に取り組み、地域と空港の持続可能な発展を目指す
 - ② 温室効果ガス削減などの気候変動対策を進め、地球規模の環境課題に取り組む
 - ③ 環境マネジメントを強化し、成田空港に関連する人や企業などのステークホルダーと共に空港の活動に関連する社会全体で環境負荷低減と地球規模の環境課題に取り組み、エコ・エアポートを推進する
- CO₂ 削減は世界全体で長期的に取り組む重要な環境課題として長期目標を設定し取り組む【2030 年度までに空港から排出される CO₂ を 2015 年度比で発着回数 1 回あたり 30%削減します】

エコ・エアポート基本計画（2016～2020 年度）

- 基本計画はビジョンの実現に向けて、「周辺環境」、「資源循環」、「気候変動」、「環境マネジメント」の 4 つの区分毎に 2016～2020 年度の 5 カ年での取り組み項目及び目標を設定
- 数値管理が可能な項目については、2020 年度に向けた数値目標を設定し取り組みを推進
 - ① 大気質の保全に取り組む【NO_x 排出量を 5%削減※する】
 - ② 資源の循環利用に取り組む【廃棄物処分量を 5%削減※する】
 - ③ 水資源の循環利用に取り組む【上水使用量を 3%削減※する】
 - ④ 空港からの CO₂ 排出量を削減する【CO₂ 排出量を 7%削減※する】
 - ⑤ エネルギー使用量を削減する【NAA 管理施設でのエネルギー使用量を 5%削減※する】
- NAA と空港関連事業者が連携し、成田空港に係る社会全体での環境負荷削減を目指す
※2015 年度比で「発着回数 1 回あたり」、「空港利用者 1 人あたり」の原単位での削減

エコ・エアポートビジョン 2030 及びエコ・エアポート基本計画(2016～2020 年度)について

目次

I. これまでの総括と環境の変化	3 項
II. エコ・エアポートビジョン 2030(成田空港の目指すべき姿)	4 項
III. 「エコ・エアポートビジョン 2030」と「エコ・エアポート基本計画(2016～2020 年度)」の関係	5 項
IV. エコ・エアポート基本計画の取り組み項目と具体的施策	6 項
1. 『周辺環境への取り組み』	6 項
2. 『資源循環への取り組み』	8 項
3. 『気候変動への取り組み』	9 項
4. 『環境マネジメント』	10 項

I. これまでの総括と環境の変化

これまで成田空港では 2010 年に 10 年後の成田空港のあるべき姿として、「地球温暖化防止」「循環社会への貢献」「自然共生」を柱に「エコ・エアポートビジョン 2020」を策定し、これを実現するための「エコ・エアポート基本計画(2011～2015 年度)」に基づき空港関連事業者と一体となってエコ・エアポートの推進を図ってまいりました。

2015 年度をもって現在の基本計画期間の 5 カ年が満了いたしますが、期間中に発生した福島原発事故等の影響により一部の取り組みにおいて進捗が思わしくないものがあるものの、全体を通じては概ね順調に進捗しているところであります。

この間に成田空港を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。一つに、首都圏の国際競争力を強化するための施策として政府では首都圏空港(羽田空港及び成田空港)の更なる機能強化を推進しており、成田空港の機能強化については具体化に向けて関係者との議論が進められております。成田空港における更なる機能強化を実現するためには、これまで以上に周辺地域の環境負荷に配慮し、地域と空港が共に発展することが求められております。

また、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定し、環境省では同大会を契機とした環境配慮の推進を目指しており、「低炭素化の推進」、「良好な大気・水環境の実現」、「リデュース・リユース・リサイクル(3R)の徹底」などの取り組みにより、「環境にやさしい五輪」の実現を目指しております。

さらに、地球規模の気候変動問題については、昨年 12 月に「第 21 回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP21)」において 2020 年以降の気候変動対策の新たな法的枠組である「パリ協定」が採択され、日本は約束草案として 2030 年度までに 2013 年度比で温室効果ガスを 26%削減する目標を提出し、地球温暖化防止に向けた取り組みが益々必要になってきております。

このような中で成田空港は、地球的視野にたった環境への取り組みを積み重ねることにより、環境にやさしい循環型空港(エコ・エアポート)を目指すと共に、地域の一員として信頼関係を築きながら、豊かな 21 世紀社会の実現に貢献するために、新たに「エコ・エアポートビジョン 2030」を掲げ、この実現に向けた「エコ・エアポート基本計画(2016-2020 年度)」を策定し、今後もエコ・エアポートとしてステークホルダーと共に周辺地域ならびに地球的規模の環境課題に取り組んでまいります。

Ⅱ. エコ・エアポートビジョン2030(成田空港の目指すべき姿)

【メッセージ】

「成田空港はステークホルダーと共に、空港運用に伴う地域への環境負荷低減と地球規模の環境課題に取り組み、持続可能な社会の構築を目指します」

【エコ・エアポートビジョン 2030 の3つの柱】

1. 『地域と空港の持続可能な発展を目指します』

■ 空港周辺地域の環境負荷低減など、地域に根ざした環境保全に取り組み、地域と空港の持続可能な発展を目指します

2. 『地球規模の環境課題に取り組みます』

■ 温室効果ガス削減などの気候変動対策を進め、地球規模の環境課題に取り組みます

3. 『ステークホルダーと共にエコ・エアポートを推進します』

■ 環境マネジメントを強化し、成田空港に関連する人や企業などステークホルダーと共に空港の活動に関連する社会全体で環境負荷削減と地球規模の環境課題に取り組み、エコ・エアポートを推進します

【エコ・エアポートビジョン 2030 における長期目標】

■ 2030 年度までに、空港から排出される CO2 を 2015 年度比で発着回数1回あたり 30%削減を目指します

Ⅲ. 「エコ・エアポートビジョン2030」と「エコ・エアポート基本計画(2016～2020年度)」の関係

エコ・エアポートビジョン2030に示したあるべき姿を実現するために、エコ・エアポート基本計画(2016～2020年度)の4つの柱『周辺環境への取り組み』、『資源循環への取り組み』、『気候変動への取り組み』、『環境マネジメント』の取り組みを行い、その実現に向けて具体的な施策に取り組んでまいります。

<エコ・エアポートビジョン2030>

『地域と空港の持続可能な発展を目指します』

『地球規模の環境課題に取り組めます』

『ステークホルダーと共にエコ・エアポートを推進します』

<エコ・エアポート基本計画(2016～2020年度)の柱>

周辺環境への取り組み

資源循環への取り組み

気候変動への取り組み

環境マネジメント

IV. エコ・エアポート基本計画(2016年度～2020年度)の取り組み項目と具体的施策

エコ・エアポートビジョン2030を達成するために2016年度～2020年度の5ヵ年において、以下の4つの項目『周辺環境への取り組み』、『資源循環への取り組み』、『気候変動への取り組み』、『環境マネジメント』を柱に、各取り組み項目における目標達成のために具体的な施策に取り組んでまいります。【目標数値は2015年度を基準年度とします】

1. 『周辺環境への取り組み』

① 航空機騒音による環境負荷を低減します

<具体的な施策>

- ・低騒音型航空機の導入促進
- ・補助動力装置(APU)の使用抑制と地上動力装置(GPU)の使用促進
- ・騒音対策の更なる充実
- ・航空機騒音のモニタリングと結果公表の充実

② 大気質の保全に取り組めます【大気汚染物質(NO_x)を発着回数1回あたり基準年度比で5%削減します】

<具体的な施策>

- ・低排出型航空機の導入促進
- ・航空機の地上走行時間短縮に向けた取り組みを実施
- ・補助動力装置(APU)の使用抑制と地上動力装置(GPU)の使用促進
- ・空港関連施設における省エネ推進
- ・低公害車の導入促進
- ・空港周辺での大気質のモニタリングと結果公表の充実

③ 雨水排水の水質を維持します

<具体的な施策>

- ・防除氷剤の適正使用及び回収・処理の実施
- ・濁水などの流出防止対策の実施
- ・工事期間における工区内貯留及び沈砂池の設置による濁水流出防止対策の実施
- ・工事工区の細分化による濁水の発生抑制対策の実施
- ・空港周辺河川等での水質のモニタリングと結果公表の充実

④ 生物多様性を育む自然環境保全に取り組みます

<具体的な施策>

- ・自然環境の状況把握と希少種など保全活動の実施
- ・農地環境の保全
- ・里山の景観復元
- ・グリーンポート・エコアグリパークの保全及び啓発活動への活用

⑤ 地域と共に環境取り組みの推進・強化に取り組みます

<具体的な施策>

- ・地域の状況に合わせた騒音対策用地の活用
- ・地域と共に環境保全活動を推進

2. 『資源循環への取り組み』

① 資源の循環利用に取り組みます【廃棄物処理量を空港利用者 1 人あたり基準年度比で 5%削減します】

<具体的な施策>

- ・空港関連施設における一般廃棄物排出量削減及びリサイクルの推進
- ・産業廃棄物(梱包剤、木製スキッド、その他)のリサイクル推進
- ・航空機からの取り降ろしゴミ削減に向けた取り組みの推進
- ・お客様、従業員など空港利用者に対する意識啓発活動を実施
- ・空港から発生したコンクリート・アスファルト廃材の再資源化を実施
- ・刈草や伐採木などの有効活用に向けた取り組みを実施
- ・グリーン調達推進

② 水資源の循環利用に取り組みます【上水使用量を空港利用者 1 人あたり基準年度比で 3%削減します】

<具体的な施策>

- ・建物別、季節別の上水使用状況分析による節水対策の実施
- ・設備更新時における節水型設備の導入促進
- ・中水使用による上水使用量の削減を実施
- ・お客様、従業員など空港利用者に対する意識啓発活動を実施

3. 『気候変動への取り組み』

- ① 空港からの CO2 排出量を削減します【空港から排出される CO2 を発着回数 1 回あたり基準年度比で 7%削減します】

<具体的な施策>

- ・低排出型航空機の導入促進
- ・航空機地上走行時間の短縮に向けた取り組みを実施
- ・補助動力装置 (APU) 使用抑制と地上動力施設 (GPU) の使用促進
- ・次世代航空機燃料導入にむけた取り組みを実施
- ・低公害車による来港支援 (EV 充電設備、天然ガス・水素ステーション)
- ・低公害車導入促進とエコドライブの推進
- ・廃棄物焼却時のサーマルリサイクル (熱回収) 発電の実施
- ・電力購入における低炭素電源の選択
- ・再生可能エネルギーの導入促進

- ② エネルギー使用量を削減します【NAA が管理する空港施設でのエネルギー使用量を発着回数 1 回あたり基準年度比で 5%削減します】

<具体的な施策>

- ・誘導路への LED 灯火設置拡大
- ・エネルギー管理による省エネルギー対策の推進
- ・省エネルギー活動の実施 (節電啓発、クールビズ、ウォームビズなど)
- ・新設及び設備更新時における省エネルギー機器の導入促進

③ 地球温暖化に伴う気候変動への適応対策を進めます

＜具体的な施策＞

- ・暴風雨その他の異常な自然現象への防災対策を適切に実施

4. 『環境マネジメント』

① 環境アセスメントの実施と検証により環境を保全します

＜具体的な施策＞

- ・機能強化に向けた環境影響評価法に基づく環境アセスメントの実施
- ・自主的な環境アセスメントの実施

② ステークホルダーと共に空港の活動に関連する社会全体での環境負荷削減に取り組み価値創造を目指します

＜具体的な施策＞

- ・ステークホルダーと連携した環境負荷削減活動の推進
- ・環境に配慮した調達物の推進

③ ステークホルダーとの相互対話を積極的に実施します

＜具体的な施策＞

- ・ステークホルダーとの相互対話を推進
- ・エコ・エアポート推進協議会を中心として環境保全活動を実施
- ・空港従業員への環境教育・啓発活動の実施
- ・騒音、大気質、水質測定結果、飛行コースなどの環境情報公開
- ・騒音、大気分野などの環境関連学会での発表
- ・エコキッズ・クラブ、環境展示会への出展、出張環境教室の実施

④ 環境認証制度を活用した環境マネジメントを実施します

＜具体的な施策＞

- ・環境認証制度を活用した環境マネジメントの推進

⑤ 国内外の空港と連携し、環境負荷削減に貢献します

＜具体的な施策＞

- ・国内主要空港連絡会議を活用した情報交換や環境保全活動の推進
- ・国際空港評議会(ACI)を活用した情報交換や意見発信
- ・海外空港との情報交換や技術提供

⑥ 東京オリンピック・パラリンピックに向けて各種施策や新たな技術の試行・導入に取り組み、世界にエコ・エアポートを発信します

＜具体的な施策＞

- ・低炭素、良好な大気質、3R(リデュース、リユース、リサイクル)に向けた環境施策の推進
- ・成田空港での水素エネルギー活用に向けた取り組みを実施
- ・次世代航空機燃料の導入に向けた取り組みを実施
- ・エコ・エアポートの発信